県育成品種「愛知夏黄１号（仮称）」の特徴と安定生産のポイント

～シェード（短日処理）無用！ヤナギ芽の克服で夏の黄色一輪ギクはこれで決まり！～

野村　浩二（東三河農業研究所　花きグループ）
【平成２２年４月３０日掲載】

【要約】
愛知県が愛知県花き温室園芸組合連合会きく部会と共同で育成した夏秋系黄色一輪ギク「愛知夏黄１号（仮称）」は生育が旺盛で、輝くような黄色の大きな花が特徴であり、市場評価も高い。また、芽かき作業が省力でき、開花期に短日処理が不要であるなど生産者のメリットも多く、今後普及拡大が期待されている。しかし、ヤナギ芽が発生しやすいため、早期発蕾の防止が安定生産の最大の課題で、対策のポイントとしては、①６～８月出荷の作型は摘心栽培を基本とすること、②元親株は自然の低温に遭遇した吸枝から仕立て、採穂はできる限り３月末までに済ませること、③摘心時から摘心１週間後までにエテホン液剤（早期発蕾防止効果のある植物成長調節剤）500 倍液を散布することである。

１　はじめに

「愛知夏黄１号」は、愛知県が愛知県花き温室園芸組合連合会きく部会と共同育成した夏秋系黄色一輪ギクである。平成 15 年に農業総合試験場が行った交配に始まり、以降試験栽培を繰り返し、平成 21 年３月に品種登録出願、同年５月には登録申請公表がされ、現在６～８月開花作型で本格的な生産がスタートしている。市場評価は高く、夏系黄色輪ギクの主要品種としてのさらなる普及が期待されている（**写真１**）。

写真１　開花時の様子

２　主な品種特性

（１）長所
・生育が非常に旺盛で、茎葉全体にボリュームがある。
・花色は光沢のある明るい黄色で、花形がよく、開花径が大きい（14cm 前後）。
・取り除くべき腋芽や蕾の発生は５～８個程度と少なく、省力的である。
・消灯後のシェード（短日処理）が不要で、到花日数は 6.5 週前後と早生である。

（２）短所
・早期発蕾によりヤナギ芽が発生しやすい。
・消灯後に下葉が枯れ上がりやすい。
・９月出荷の作型は、摘心後の不萌芽や奇形花が多く、栽培適性が低い。

３　安定生産のポイント

「愛知夏黄１号」は長日処理中でも花芽分化しやすい。その場合は花首が必要以上に長くなり、上位葉には柳葉が目立ついわゆるヤナギ芽となり、著しく品質が落ちる（写真２）。このようなヤナギ芽発生の防止こそがこの品種を高品質安定生産する最大のポイントである。そのためには以下の点に留意して生産する必要がある。

写真２　ヤナギ芽の発生

（１）健全な親株からの採穂

・元親株には、生育が旺盛で、花色、花形が品種本来の特性を発揮している健全な株を選定し、開花後の切り株を露地ほ場へ移植するか、もしくは収穫後に発生してきた側枝をかき取り、挿し芽して発根させたものを同様に露地ほ場に植え込む。12 月頃までに２～３回ほど 10cm 程度の高さで台刈りして、吸枝の発生を促す。

・12 月下旬以降に、無加温ハウスに吸枝を移植し、採穂用の親株とする。

・吸枝入室時期から４時間の暗期中断による電照を実施する。

・４月中旬以降は、無加温・長日条件の親株でも花芽分化しやすいため、できる限り３月末までに採穂を終わらせる。

（２）摘心栽培の実施

栽培は無摘心でも可能であるが､ヤナギ芽発生のリスクが高く、生育開花のばらつきも目立つ。一方、摘心栽培では、無摘心栽培に比べ早期発蕾株率が大幅に減る（図１）。

摘心栽培では、無摘心に比べて栽培期間が長くなるが、茎の伸長が非常に早く、栄養生長期間は 33 日程度でも十分な切り花長が得られる（表１）。夏秋系白一輪ギク「岩の白扇」の無摘心栽培と比較しても栽培期間はあまり変わらない。よって、「愛知夏黄１号」の生産は摘心栽培を前提とするのが賢明である。

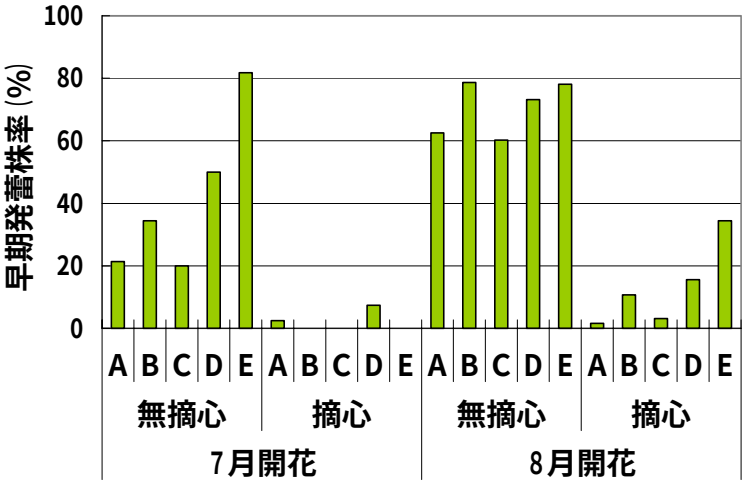

図１　摘心栽培と無摘心栽培のヤナギ芽発生率比較

※Ａ～Ｅは親株育成条件の違い（詳細は省略）

※早期発蕾株は消灯14日目の発蕾株とした

表1　栄養生長期間と生育開花　　（8月開花　摘心栽培）

栄養生長期間	草丈			節数			到花日数	柳葉数	花首長	90cm調整重
	消灯時	開花時	増加量	消灯時	開花時	増加量				
	cm	cm	cm					枚	mm	g
38日間	56	128	71	19	47	28	44	3.3	45	70
33日間	52	129	77	17	46	29	46	3.2	50	66
28日間	38	119	81	12	41	29	47	3.3	55	57

※栄養生長期間は、摘心日から消灯日までの日数

（３）エテホン液剤処理

親株、もしくは定植株へのエテホン液剤処理によりヤナギ芽の発生を抑制することができる。親株へは、採穂前摘心時にエテホン 500 倍液を散布することで、その後採穂した株はヤナギ芽発生率が低くなる。また、定植後の処理では、摘心時から摘心 1 週間後までに 500 倍液を１回処理することで、ヤナギ芽の発生が抑制される。

４　栽培の許諾について

「愛知夏黄１号」の育成者権は、愛知県と愛知県花き温室園芸組合連合会きく部会にある。そのため、同きく部会員以外が栽培するには、栽培許諾を受け、利用料を支払うことが必要となる。許諾内容、利用料等の詳細は、以下へ問い合わせをしていただきたい。

問い合わせ先

愛知県農林水産部園芸農産課花きグループ
電話　０５２－９５４－６４１９（ダイヤルイン）

Copyright (C) 2010, Aichi Prefecture. All Rights Reserved.